

2015年9月1日開催 第601回番組審議会

■ 出席委員

櫻井美幸委員長、佐藤友美子副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、小菅洋人委員（書面参加）、佐藤卓己委員（書面参加）、津村記久子委員、中野健二郎委員（書面参加）、東野博昭委員、細見良行委員

■ 毎日放送出席者

三村社長、梅本専務、木田取締役、西田取締役
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長
磯澤報道局長、津村記者

◆ 審議事項

報道番組「新幹線火災の記録～記者とカメラマンが証言する緊迫の2時間」(2015年7月5日(日)4:45～5:12放送)について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 本当に生々しい、真に迫った映像を見せていただいた。犠牲者に申し訳ないが、見る価値のある、報道する価値のあるものじゃないか。
- * 事件の報道としてすばらしいが、もう一つはそこにたまたま居合わせた報道関係者がどういう行動をとったかというニュースでもある。
- * もしも自分が遭遇したらどうやって身を守れるかというのが、あの番組の中で知りたかった部分で、そういう視点も欲しかった。
- * この番組から一番感じたのは、リアルさで、「まさに今、事件が起こっている」という印象が強く残った。
- * 番組内容から派生して、報道マンとしての使命のようなものを考えさせられた。もしも自分が乗っている車両で火が出たらカメラはまわすのか。焼身自殺が目の前だったらどうするのか。
- * 機転がすごいのと冷静にインタビューしていたのにはびっくりした。本当によくできていた番組だ。
- * 番組全体の印象を言えば、カメラマンと記者の取材態度が冷静で、たんたんとしていてとても良かった。最近では事件、事故現場での素人の投稿動画が重宝されるが、やはりプロの仕事だ。
- * 困難な状況の中で冷静に車内を取材し、スマートフォンによる生中継を実現したところには取材・撮影のプロとしての矜持を感じた。
- * 映像から「事故」の緊迫感と混乱が、出火当時から数十分という時間で、「臨場感」が強く感じられたドキュメント番組になった。
- * スマホを持っていたら誰でも撮ることはできるかもしれないけれども、取材をすることができるわけではないところが、すごく大きな違いだ。

* 二次被害を起こさないように、あるいはインタビューを受ける人に対して配慮をすることが大事だと、抑える視点も入れていたのがよかった。

以上